美幌博物館　月刊情報誌

GREEN LETTER
グリーンレター

Vol. 227
2015/08/01

今月の一枚
今月のイベント
参加者募集
GREEN COLUMN
01. 動物たちの夜会
02. カメラの前で、はいポーズ！

今月の一枚

「ユキウサギ」

表紙写真・文／町田善康

6月下旬、ユキウサギに出会い、道端の草をモグモグ食べる愛らしい姿に癒されました。

このウサギ、普段、私たちがペットショップで目にするウサギとは、ちょっと違った姿をしています。まず、体が大きい（トイプードルぐらい）。そして、耳が短く、足が大きい。寒い北海道の冬を暮らす特徴が随所に見られます。顔は可愛いくせに、しっかり野生動物しています。

Event. 今月のイベント

特別展「すてきな昆虫たち」 8月2日（日）～10月25日（日）

プチ工房「モザイクタイルのコースター」 8月6日（木）, 13日（木）

モノ作り講座 夏休みスペシャルバージョン②「ビー玉迷路をつくろう」 8月7日（金）,8日（土）

博物館講座（自然編）「身近な自然からの贈り物 ～不思議と感動に満ちた昆虫の世界～」 8月9日（日）

博物館講座（歴史編）「黒曜石の産地を見に行こう」 8月29日（土）

Information. 参加者募集

プチ工房 「モザイクタイルのコースター」

● 8/6 ㈭, 13 ㈭ 10:00-12:00, 14:00-16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ●美幌博物館 1F 講座室 ●材料費（300 円）●城坂結実（美幌博物館） ●申込み不要。小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座（自然編）「身近な自然からの贈り物～不思議と感動に満ちた昆虫の世界～」

● 8/9 ㈰ 9:30-12:00 ●美幌博物館 2F 視聴覚室 ●無料 ●大場信義（大場蛍研究所） ●美幌博物館へ電話申込み（8/7 まで）。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要。講演会終了後、特別展の見学を行います。

博物館講座（歴史編）「黒曜石の産地を見に行こう」

● 8/29 ㈯ 9:00-16:00 ●遠軽町白滝赤石山（集合解散は美幌博物館） ●保険料（100 円）, 昼食 , 飲み物 , 歩きやすい服装と靴 , 帽子 , 雨具 , 虫よけスプレー ●瀬下直人（遠軽町埋蔵文化財センター） ●美幌博物館へ電話申込み（8/1-8/26 ）。定員は 18 名。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要。雨天時は、遠軽町埋蔵文化財センターを見学します（入館料 300 円が必要）。

今月の休館日

3日，10日
17日，24日
31日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用 , 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN
グリーンコラム

動物たちの夜会

写真・文／町田善康

野生動物を観察する時、上手に観察しないと、彼らの自然な行動を見ることはできません。特に、警戒心の強い猛禽類など（例えば、オジロワシ）は、注意が必要です。

そのため、遠くから観察したり、隠れ家のようなものを作ってその中から観察したりします。また、自分の存在を動物たちが気にしなくなるまで、1時間も2時間も、ジッと待つこともあります。これは、自分が周りの自然に溶け込むほどジッとしなければならないので、大変な苦労を伴います。

一方、こうした苦労をせずとも動物たちが発する熱などに感知して、写真が撮れるカメラが市販されています（通称：自動撮影カメラ）。このカメラを動物たちが普段通る「けもの道」に設置すれば、より自然な行動を見ることができます。特に、夜の観察には大変適した道具です。

そこで、今年から町内の数カ所にカメラを設置し、普段見ることができない動物たちの営みについて観察を始めました。

すると、カメラを設置してすぐに、シカの親子や、タヌキ、キツネなどが写りました。そして、それらすべてが、見たこともないような生き生きした姿だったのです。

そして、最も驚いたのが写真のキツネです。何気なくカメラの前に現れ、立ち止まりました。そして、「ウン」と力むと、大きなお土産を残して走り去っていきました。こんな様子は、自動撮影カメラでなければ写せない様子でしょう。

今後、このような動物たちの知られざる姿を皆さんにご紹介できればと思います。

02 GREEN COLUMN
グリーンコラム

カメラの前で、はいポーズ！

写真・文／城坂結実

美幌町で見られるカエルは２種類います。ニホンアマガエルとエゾアカガエルです。そしてこの時期、夕方から夜にかけて「グワッグワッ･･･」と水辺で大合唱しているのは、小さくて指先に吸盤のある、ニホンアマガエル。６～８月にかけて聞こえるこの声に、夏の訪れを感じるという方もいらっしゃるのではないでしょうか。

数年前から美幌博物館の第２展示室で飼育しているニホンアマガエルも、最近、人気のない静かな時は鳴くようになりました。カエルは人の気配を感じるとすぐに鳴きやんだり、姿を隠してしまったりするので､野外では特に、その姿や行動をじっくり見る機会はありません。

ところが先日、みどりの村のキャンプ場で、めずらしく葉っぱの上でジ～ッとしているニホンアマガエルに出くわしました。体の色は葉っぱとそっくりな緑色で、私が近づいても、隠れているつもりなのかピクリとも動きません。これ幸いと、カメラを向けて何度もシャッターをきった結果、上のような写真が撮れました。

写真を見てみると、まるでカエルが「撮ってくれ」と言わんばかりの様子です。視線の先はどこを見るともないようですが、何か強い意志のようなものも感じます。

もしかしたらこのカエルは、ジッと隠れていたのではなく、カメラの前で堂々とポーズをきめていてくれたのかもしれませんね。

…とここまで書いたところで、前ページの町田さんのコラムを読みました。まさか、キツネもポーズをきめていたのでしょうか！？

【発行】
美幌博物館

【デザイン・編集】
城坂結実

【お問い合せ先】
美幌博物館
北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4
Tel ／ 0152 (72) 2160　Fax ／ 0152（72）2162
mail ／ museum@town.bihoro.hokkaido.jp
http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html
無断掲載・転載を禁ずる

学芸員補のつぶやき

最近、博物館周辺で目撃されているユキウサギ。私はまだ一度も見ていないので「見たい！見たい！」と念じていたところ、お願い事が通じたのか、全く別の場所で交通事故にあったウサギの死体に出くわしました。（城坂）